

第21回 第5分科会会議録(概要)		場 所	新宿区役所第一分庁舎 7階研修室
日 時	平成18年4月25日 午後7時00分～午後9時25分	記録者	【学生補助員】 久保田・佐々木
		責任者	区事務局(松浦・池田)
会議出席者：19名 傍聴者：1名 (区民委員：14名 学識委員：2名 区職員：3名)			
配付資料 第20回会議録 提言のまとめ(案) 提言までの流れ 提言書フォーマット 5月・6月の日程のお知らせ 第3回編集部会まとめ 第1回提言ワーキンググループまとめ 進行内容 1 はじめに 2 リーダーからの報告 3 学識委員より 4 項目のまとめ、整理 5 役割分担 6 事務連絡 会議内容 【発言者】 : 区民委員、 : 学識委員、 : 区職員 1 はじめに ○: 配付資料の確認(7点) 配付資料 「提言のまとめ(案)」は、表面は前回の会議で話し合われた項目のまとめで、裏面は4月14日の編集部会で、各分科会の中項目・小項目を持ち寄り整理し、第5分科会が担当する項目をまとめたものです。後ほど説明します。配付資料「提言までの流れ」は、6月25日の区長への提言までの作業日程です。配付資料「提言書フォーマット」は各分科会で共通したものです。それぞれ中項目に「将来のあるべき姿」、「現状の課題」、小項目に「取組みの方向性」を書いていただきま			

す。配付資料「第1回提言ワーキングのまとめ」は、4月18日の提言ワーキンググループの報告です。6月25日に早稲田大学井深大記念ホールで区長への提言のおおまかな内容が決まりました。配付資料「第3回編集部会まとめ」は、編集部会で話し合った各分科会の中項目を整理したものです。今回は中間発表とは違い、第1～第6の分科会がそれぞれ提言を出すのではなく、新宿区民会議としてひとつの提言とします。

本日の進め方ですが、この後、報告事項、項目のまとめと整理を行い、最後にまとめに向けての役割分担を決めていきたいと思います。

2 リーダー報告

- ： 項目のまとめに戻ります。前回の分科会で、中項目・小項目のまとめ、整理についての話し合いと皆さんの意見をもとにリーダーと事務局で最終整理を行い、編集部会へ提出しました。編集部会の内容は、橋本先生から報告をお願いします。

3 学識委員より

- ： 4月14日の編集部会において、学識委員と各分科会のリーダーが、中項目を中心に整理しました。第5分科会は第3分科会との間で、文化と観光の部分の調整があること等を話し合いました。簡単に経緯を話しますが、第1～第6分科会を並列にやっていくということでは提案書として1つのまとまりがなくなってしまう恐れがあるので、一つの提言にすることになりました。第3分科会の項目をもとに整理し、重複しているもの等は調整していきます。仮の大項目の1と3のところに第5分科会が議論してきた内容が入ってくるということになります。私見となるかもしれませんが、第5分科会の提言の中で、一番注目されるべき点は、情報発信をどういう形で提言書の中に入れるか、そして産業の問題をどう練り込んでいくのか。観光は第3分科会も関連していますが、第5分科会らしく進めていけるかと思います。なお、関連している部分は他の分科会との調整が必要となってきます。全体としては意見が対立するのではなく、仮の大項目を4つとして、ひとつの提言書にまとめていくように、編集が進んでいます。執筆者にもこうした流れを理解してもらうことが必要です。また1つ問題は、締め切りが決まっている中で、全体としては第5分科会で話し合われてきたことは、提言書の中に反映されるようなイメージとしてとらえることはできるのかなと思いました。皆さんが話し合われてきた内容、「産業、文化・観光」を、提言書の中に、ソウトウエアとして入れていくことになります。しかし、むしろ土台があるという中で、それが執筆に際して当たり障りのないことと認識していますので、その中で書き上げることが重要なポイントだと思っています。

す。

- : ありがとうございます。一部補足させていただきます。4月14日の編集部会案を見てください。網かけの「文化を身近に感じるまち」などの部分は第5分科会から出した中項目です。編集部会で、内容が近いものは1つのくりにして整理しました。例えば、第5分科会から文化について、3つの中項目が出ていたのですが、それを1つにしましたので、本日、新しい中項目のタイトルを考えてください。また、第3分科会の「文化・歴史を都市の軸にする」も合体し、第5分科会で一緒に書くことになっています。この部分について、原稿を第3分科会からいただきます。同じように「道草のしたくなるような楽しいまち」は観光の部分ですが、第3分科会も「ぶらり新宿」でハード面から観光を考えているので、原稿をもらい第5分科会で主に執筆します。また、「区民どうしのふれあい、絆を大切にすらし」の中身は協働、参画と、第6分科会が主に執筆しますので、第5分科会で検討している部分の原稿を提出します。これらは編集部会を通して、調整していきます。本日の作業は、一つにした中項目に新しいタイトルをつけることと、小項目の再確認と整理です。また、中項目ごとに「将来のあるべき姿」、「現状と課題」を書いていただくので、中心となって執筆する方を決めさせていただきたいと思います。なるべく一人の方に負担をかけるのではなく、みんなで役割分担していきたいと思っています。次回の分科会までにある程度原稿を書いていただきますが、途中で仮の締め切りを設けて、学識の先生にアドバイスを入れていただきたいと思います。

また、6月25日の区長への提言について、おおまかな内容が決まりました。代表者が提言書の大項目ごとに説明し、その後、区長に提言書を渡します。当日は、中間発表会同様に皆さんにもお手伝いいただきます。またワーキンググループで、提言書を区長に渡す時に、これからも継続して見守り、皆さんの提言が形になるように宣言したらどうかという意見がありました。分科会ごとに決めて、ワーキンググループへ持ち帰ります。サプリーダーの方、補足お願いします。

- : 第6分科会の提言の中に、そういう提案は入りますが、後に続くという意味を会場の方も区民も一緒になって提言を理解し、行政だけではなく区民も自覚するための宣言をしましょうという発案が出ました。それぞれの分科会で皆さんの意見を聞くということになりました。よろしくをお願いします。
- : 提言を渡す際に宣言をすることに反対な方はいますか。(なし)
第5分科会としては宣言するという事で次回の編集部会に報告します。

4 項目のまとめ、整理

- : それでは中項目の最終確認をお願いします。配付資料 「項目のまとめ(案)」と配付資料 「第3会編集部会まとめ」を合わせて見てください。では、中項目・小項

目のまとめ、整理をお願いします。

(全員で検討、討議)

- : 仮の4つの大項目のイメージするものがわかりにくい。
- : 他の分科会も躊躇している部分だと思います。一つのポイントとしては、まちづくり、景観づくりというところが実はハードウエアだけではもはや問題解決しないという意識もあります。どうまとめるか。共有したいのはまちづくりが全体のベースになっている。その中でソフトウエアとして文化、観光、産業をどう入れるか。限られた時間の中で第5分科会らしさ、ソフトウエア的なものをどう出していくか、みなさんの知恵を拝借したいと思います。
- : 大項目のタイトルですが、あえて未定としてあります。参考として仮のタイトルは1「土地の記憶の再生と創造」イメージは文化、歴史、みどり、景観等です。2「くらしを守り、いのちを育てる」イメージは住環境、防災、公園等です。3「楽しもう新宿」イメージは道路、交通、賑わい等です。4「われらの新宿」イメージは協働、参加の新しい仕組みづくり、自治、コミュニティ等です。そのイメージに沿って、編集部会でおおまかに中項目を整理しました。観光の部分の中項目「道草のしたくなる楽しいまち」で、第3分科会と重なる部分があり、先日、意見交換が行われました。
- : 4月20日の第3分科会に出席して、意見交換をしました。内容的にはそんなに重複していないという意見がありました。第3分科会としても、意見が反映されれば第5分科会の具体的提案はそのままでもいいのではないかという意見が大半でした。
- : 第3分科会で考えている「ぶらり新宿」については、原稿をもらい、第5分科会で、中項目・小項目を書いていきます。
- : 小項目はどれくらいですか。
- : 中項目にぶらさがる小項目として6～8つくらいですが、10つくらいまでいいのではないかという話も出ています。小項目についてはフォーマットに基づいて、5W1Hの形で書いていただきます。
- : 私は新宿というのは先端だけではないと思うのですが。先端と末端があると思うのです。
- : 末端があったほうが観光としては面白い。事例としてはあいまいですけどニュアンスが面白い。
- : 新宿は土地的アドバンテージが常にある。なぜかという人が集まっているから。どこの地域でも産業を盛り上げていこうとか。新宿でないと最先端の産業は思いつかない。そういう顔がある。新宿は染物、織物、昔ながらの伝統産業もありながら新しい産業もあるところが面白いと思います。逆にまとめるのが難しいことにな

ると思います。

- : 情報については、骨太のテーマで、全部に伝わっているというのは入れなければいけないと思います。
- : 図書館を含んだ情報発信だとか、情報発信とかネットワークがあっているんところが楽しめるとか。
- : 内容的には、「知のネットワーク」なのですよね。それは図書館という形をとる。それを担うのは人だということになります。
- : 協働というよりふれあいですよね。
- : では、第5分科会として、5つの中項目が決まりました。

5 役割分担

- : 中項目については、どなたかが中心となって書いていただき、小項目については、ある程度、皆さんで分担したほうがいいかと思うのですが。5つの中項目ごとにグループ分けして、役割分担を決めたいと思います。

(中項目ごとに執筆グループを編成)

- : 配付資料 「提言までの流れ」を見てください。このスケジュールにあわせていくと、提言書の印刷原稿の締め切りが6月9日なのでそれから逆算します。ここに間に合わせるためには、次回の分科会(5月8日)で原稿を全員に検討していただき、編集部会に提出しなくてはなりません。難しい部分もあると思いますので、一度、事務局に送っていただければ、学識の先生方に転送しアドバイスをいただき、皆さんに送り返します。必要に応じて手直ししていただいて、次回の分科会の前までに事務局に提出して下さい。
- : 次回の分科会が5月8日にありますが、それまでに文章も見てもらわないと不安だという方は、事前に一度、提出して下さい。
- : 項目ごとに何字くらいになりますか。
- : 配付資料 「提言書フォーマット」が各分科会の共通のフォーマットです。小項目については、「取組みの方向性」を5W1Hを用いて、10行程度で簡潔に表現して下さい。中項目は、「将来のあるべき姿」、「現状と課題」をA4用紙(40文字×35行)それぞれ1枚になります。題名は16ポイント。文字は12ポイントです。書いていただく方にはフォーマットをメールで送ります。5月2日までに提出して下さい。途中段階でも構いませんので、一度、先生にアドバイスをいただいて、皆さんにお返ししますので、原稿素案を5月7日までに事務局へ提出していただきたいと思います。それぞれの中項目のグループで小項目を相談していただく必要があ

ります。事務局はグループのリーダーに連絡していき形よろしいでしょうか。
分科会終了後にグループメンバー間で連絡をとれる形にして下さい。
確認ですが、原稿素案は次回の分科会前までに各リーダーを通じて事務局へ提出し
て下さい。次回の分科会で検討させていただきます。

7 事務連絡

* 次回の分科会

- ・ 5月8日(月) 午後7時～午後9時 新宿区役所第一分庁舎7階研修室

以上